



| 病名 | 登園停止期間(登園基準) | 主要症状 | |
|------------------------|---|--|-------------------------------------|
| インフルエンザ | 発症日を0日とし、発症後5日間もしくは、解熱後3日経過するまで | 高熱(39～40℃)・全身倦怠感・頭痛 腰痛・筋肉痛・せき・鼻水・鼻づまり のどの痛み・嘔吐・下痢・腹痛 | 1～2日 |
| 急性灰白髄炎 (ポリオ) | 急性期の症状が治癒するまで | 軽い発熱の後、体の麻痺が起こる 夏かぜに似た症状 | 7～12日 |
| 百日咳 | 特有の咳が消えるまで | 夜間にコンコンという短く激しい咳 | 7～16日 |
| 麻疹(はしか) | 熱が下がって3日を経過するまで | 発熱・鼻水・くしゃみ・結膜炎症状 口中、顔、耳の後ろに赤い発疹 | 10～12日 |
| 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) | 耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫れが発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好となった後 | 耳下腺(耳たぶの下)の腫れと痛み | 14～24日 |
| 風疹 (3日ばしか) | 発疹が消えるまで | 発熱(軽度)・発疹・リンパ腺の腫れと 痛み(押すと痛む) | 14～21日 |
| 水痘 (みずぼうそう) | 全ての発疹がかさぶたになるまで | 発熱・顔、手、足、胸に小さな水ぶくれ状の 発疹・中の水が破れてかさぶたになる | 11～20日 (14日程度) |
| 咽頭結膜熱 (プール熱) | 主要症状が消えてから2日を経過するまで | 39～40℃の発熱・のどの痛み・頭痛 食欲不振・眼痛・目やに・眼の充血 | 5～6日 |
| 結核 | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 初期には無症状・発熱・咳・呼吸困難 チアノーゼ | 年齢・菌量・体質・ 感染頻度等の関係で 発病時期はさまざま |
| 腸管出血性大腸菌 感染症(O-157) | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 激しい腹痛・水様性の下痢・血便 | 4～8日 |
| 流行性角結膜炎 | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | まぶたの腫れ・異物感・目やに | 1週間以上 |
| 急性出血性 結膜炎 | 適切な抗菌薬による治療開始後 24時間以降で、全身状態が良好となった後 | まぶたの腫れ・異物感・目やに | 24～36時間 |
| 溶連菌感染症 | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 発熱・咽頭の発赤・腫れ・扁桃の腫れ 化膿 | 一般に2～4日 |
| ウイルス性肝炎 (A型肝炎) | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 発熱・全身倦怠感・頭痛・食欲不振 嘔吐・下腹部痛・黄疸 | 4～7週間 |
| 手足口病 | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 軽い発熱・口の中、手、足に小さな水疱 | 2～7日 |
| 伝染性紅斑 (リンゴ病) | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 両頬に盛り上がった蕁麻疹のような 発疹(紅斑) | 17～18日 |
| ヘルパンギーナ | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 突然の発疹(39℃以上)・のどの痛み | 2～7日 |
| 流行性嘔吐 下痢症 | 医師により感染のおそれがないと認められるまで | 嘔吐・下痢(乳白色) | 1～3日 |

○気をつけたいその他の病気

| 病名 | 主要症状 | 予防方法 | 潜伏期 |
|--------|-----------------|---|------------------|
| アタマジラミ | かゆみ(シラミ少数時は無症状) | ①タオル・くしの共用を避ける ②着衣・シーツ・枕カバー・帽子などを洗うか熱処理 (熱湯・アイロン)を行なう | 気付かれるまで1ヶ月 程度 |

| | | | |
|-----------------|---------------------|----------------------|-------|
| 伝染性農痲疹 (とびひ) | 顔や手に水疱・破れて膿がでるかゆみ | 皮膚の清潔を保つ | 2～10日 |
| RSウイルス感染症 | 症状が回復し、全身状態が良好となった後 | 発熱・鼻水・咳・呼吸困難・肺炎・気管支炎 | 4～6日 |
| マイコプラズマ 感染症 | 症状が回復した後 | しつこい咳・発熱・肺炎 | 2～3週間 |
| ロタウイルス 感染症 | 下痢・嘔吐が消失した後 | 嘔吐・下痢・発熱 | 1～3日 |

◆発症の際は感染の恐れもありますので、医師の診断を受け、完全に治癒するまで自宅でお過ごしください